

## はしがき

この論文集は、2006～2008年度日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(A)による研究課題「ロシアおよびその周辺の少数言語のコーパスの構築と記述的・歴史的研究」(研究代表者：松村一登，研究課題番号：18202010)の研究成果を報告するためのものである。

科学研究費補助金は、2008年度より、冊子体の研究成果報告書の提出から、より簡潔な研究成果報告書の提出に移行したことは周知の通りである。しかし、これは日本学術振興会の側の事務処理上の都合による手続きの変更と受け取るべきで、とりわけ人文系の研究プロジェクトにあつては、研究成果の報告をテキストによって行うことの意義そのものに変化が起こったと考えるのはあつていない。

本研究プロジェクトは、研究組織の主体がいわゆる言語学者であり、内容的にも狭い意味での言語研究に重きがおかれたものとなっているが、特色がないわけではない。人文系の研究の多くが、言語資料としてのテキストから情報を取り出すことから出発するという共通点をもつことに着目し、狭い意味での言語の研究者(=言語学者)のほかに歴史学者を加えた研究組織にすることによって、同じ言語資料を言語学者と歴史学者で共有する試みも行っている。とくに小規模な言語の場合、特定の分野の目的のために言語資料を電子化するのは不経済かつ非効率的であり、出来る限り汎用の電子化言語資料を作成するのが理想的だと考えたからである。

本論文集には、連携研究者を含む次の6名の執筆者(五十音順)による9編の論考を収録した。

小野 智香子 (おの・ちかこ)	千葉大学大学院人文社会系研究科・講師
小島 康宏 (こじま・やすひろ)	東京外国語大学・日本学術振興会特別研究員
小森 宏美 (こもり・ひろみ)	京都大学地域研究統合情報センター・准教授

後藤 斉 (ごとう・ひとし) 東北大学大学院文学研究科・教授  
千葉 庄寿 (ちば・しょうじゅ) 麗澤大学外国語学部・准教授  
松村 一登 (まつむら・かずと) 東京大学大学院人文社会系研究科・教授

9編の論文は、その内容により、(i) コーパスの構築とその利用に関するもの、(ii) 電子化された言語資料を利用した個別言語の研究、の2つにグループ分けした。なお、この出版物のPDF版は、次のURLからダウンロードできる。

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/~kmatsum/kaken/index.html>

この出版物に付属するCD-Rには、本研究プロジェクトで作成した「エストニア憲法制定会議議事録」(Asutawa Kogu protokollid)の電子版(以下「コーパス」)とその原典のPDF画像が収録されている。コーパスは、well-formedなXML文書から構成されており、その中身はWebブラウザなどで閲覧できる。

この論文集が、言語資源が少ない小規模な言語の言語資料を電子化することの意義や、小規模な言語の研究を電子化された言語資料を利用して行うことの将来的な可能性に対する関心を高めることに貢献することができればさいわいである。

2009年3月

松村一登 (研究代表者, 編者)